

校名：横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉中学校

所在地：〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下3-5-10

電話番号：0467-22-2033

記載日：平成28年5月1日

記載者：米持 正伸

記載者役職：副校長

本校の校風、おおまかな特色について

概要

本校は、昭和22年（1947年）に神奈川師範学校男子部附属中学校として開校しました。その後、昭和26年（1951年）に横浜国立大学学芸学部附属鎌倉中学校と改称、さらに、昭和41年（1966年）に横浜国立大学教育学部附属鎌倉中学校と改称、そして、平成9年（1997年）には横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉中学校と改称して現在に至っています。



校風及び特色 <総合的な学習の時間「LIFE」>

本校の校風及び特色は、学校教育目標が示すとおり、豊かな心を持ち、国際社会をたくましく生きていく人間への成長を目指した教育活動が展開され、こうした生徒が育っているところです。

たとえば、総合的な学習の時間「LIFE」において、1学年では「社会の中でたくましく生きる人々から学ぶ」ことに、2学年では「社会の中で働く体験から学ぶ」ことに、3学年では「1・2学年で学んだことから自分の進むべき道を見つける」ことに取り組んでいます。

このような学習活動に取り組むための基礎として、「やさしい話し方・あたたかい聴き方」といった学び方の学習があります。日々の授業等で培った知識や技能を活用して新しい考えを生み出していくには、他者の考えを聴く力、他者に考えを伝える力が欠かせません。こうした学び方の学習の積み重ねが、新たな学びへの意欲をはぐくみ、たくましく生きていく人間への成長につながっていくと考えています。

右の写真は「LIFE」の発表会の一幕です。毎年11月末から12月初旬頃に実施しています。



帰国生教育の取組

本校では、一定期間の海外生活を経て帰国した生徒の受け入れを行っており、現在、3学年合わせて30名程の帰国生が本校で学んでいます。こうした帰国生に対して、日本の学校への適応や海外生活の経験を活かす取組を行う目的で、「帰国生の会」を毎週1回行っています。

主な取組として「海外生活体験発表会」を毎年9月に実施しており、同一地域から帰国した生徒同士がグループをつくり、その地域の様子を全校生徒の前で発表します。このほかにも、日本文化の体験学習として鎌倉の神社や寺院を訪ねたり、帰国生の会や海外生活の体験等を綴った文集を発行したりしています。

こうした帰国生の学習活動は、全校生徒の国際理解教育としても位置づけられており、学校教育目標にある「豊かな心を持ち、国際社会をたくましく生きていく人間への成長」につながるよう、取組を進めています。



ユネスコスクール (ESD) の取組

平成24年度からユネスコスクールに認定され、「ESD (持続可能な開発のための教育)」の取組を進めています。

これまでに、国際理解教育の分野は前出の「帰国生の会」の取組が担ってきており、その成果を積み重ねてきました。

一方、環境教育の分野では、本校の科学部が、横浜サイエンスフロンティア高等学校と連携して海岸調査(鎌倉・逗子・江ノ島・真鶴・習志野・館山)を実施し、海洋生物調査や海岸植生調査、地形調査などを行いました。

こうした調査結果は、毎年9月に本校で行う「文化活動発表会」で発表し、全校生徒に還元しています。

今後は、総合的な学習の時間「LIFE」をESDの中心に据え、「持続可能な社会の構築に向けて自ら行動できる人」を育てていきます。



小中一貫教育校への取組

同一敷地内のある附属鎌倉小学校との連携を強化し、隣り合う環境を最大限に活かした教育活動を実践しています。

たとえば、次期学習指導要領から小学校5・6年生に導入される英語の授業を、小・中学校の英語担当教員が連携し合同授業として先駆的に実践したり、音楽科の授業において中学生が小学生に合唱を教える授業を行ったりしています。

また、教育研究においても、小中合同研究会を年間5回実施し、小・中学校の教員が教科等ごとに研究協議グループをつくり取り組んでいます。

こうした取組をとおして、相互に授業参観をしたり交流授業を実施したりするなど、組織的な活動を行い、実践を積み上げています。

これまでに、学校教育目標のつながりを確認し、小・中9年間で育てたい子どもの姿を共有することができました。

今後は、附属小学校とともに義務教育9年間を一貫した教育課程を編成し、組織的・継続的な教育活動に取り組み、これまで以上に、子どもたちの「生きる力」を育む教育を展開していきます。

さらには、本校における小中一貫教育の成果を、県内外で取り組んでいる、または、取り組もうとしている地域や学校に発信していきます。



地域に貢献する附属学校であるための取組

平成23年度から、本校の研究発表会の指導・助言者として、全教科等に県教育委員会の指導主事に参画していただいています。この取り組みでは、県内の公立学校の取り組みに生かされる発表となるよう、当日だけでなく事前の指導案検討から指導・助言をいただいています。

また、平成24年度から、県教育委員会湘南三浦教育事務所主催の3年次教員研修の講師を、本校の全教科の教員が担当しており、湘南三浦地域公立中学校における若手教員の育成に貢献しています。

さらには、平成27年度から、本校が県内公立中学校の初任者研修の会場として活用されており、毎年6月に本校教員が全教科の授業を公開し、初任者の参考としていただいています。

このほかにも、県内公立中学校等への講師派遣や県内外からの視察受け入れが年間30回程度あり、こうした取り組みを通して各公立学校の教育活動の発展に貢献するとともに、本校教員の指導力の向上を図っています。



主な学校行事 <陸上競技大会・合唱祭>

本校では、毎年5月中旬に陸上競技大会を開催し、各学年の同一クラスナンバーの学級同士、1組が青、2組が赤、3組が緑、4組が黄ブロックをつくり、優勝目指して競い合っています。

なお、歴代の個人記録も残されており、各種目において各自が新記録を目指して取り組んでいます。

また、学級全員で参加する大縄跳び大会では、2分間で跳んだ合計回数を競います。毎年、事前練習から気持ちの入った取組を行い、各学級ともに生徒同士のつながりを深めています。

毎年10月下旬には、第52回という歴史を刻む合唱祭を開催しています。平成27年度の第51回から、陸上競技大会と同一のブロック合唱を取り入れたり、新しい総合優勝のカップを導入したりして、リニューアルを図りました。

こうした中、伝統的に生徒たちの合唱祭にかける意気込みはたかく、学年が上がるごとにレベルアップする、成長の跡がわかる質の高い合唱が演奏されています。



有志合唱団の取組

本校には、2・3学年生徒の有志で構成される合唱団があります。

合唱団の意義は、本校の伝統と文化の柱である合唱を発展させていくことであり、NHK 学校音楽コンクールや全国合唱連盟コンクールに出場し、全国大会で金賞に入選することを目標に日々練習に励んでいます。

また、地域の合唱団体等からの要請でコンサートに出演したり、記念式典で合唱を披露したりするなどの活動も行っています。

右の写真は、地域の団体からの要請により、鎌倉の鶴岡八幡宮本殿前にある舞殿にて合唱を披露している様子です。

